

2021年5月 (No.383)

主な内容とページ

反動景気が加わり最高更新へ.....	1
第1四半期は史上二番目の規模に到達.....	2
半導体の国内生産、持ち直すも前年比では微増.....	2
供給不足がさらに悪化.....	3
世界主要半導体企業 36 社第 1 四半期 26 社増収、30 社増益.....	5
記録的な結果 米半導体第 1 四半期.....	9
供給不足、バイデン政権と SIA.....	9
蚊帳の外の日本半導体(SRL だより).....	13

反動景気が加わり最高更新へ

半導体の世界需要はコロナ危機下の需要拡大に加えて危機後の反動景気が到来しつつある。

1. 第1四半期の世界の半導体出荷は、四半期ベースで史上二番目の規模に到達。底堅い既存需要に加え、今後は米中二大大国の景気回復から世界金融危機後のV字回復の再現が濃厚だ。
2. 半導体の品不足、生産能力の制限が成長を抑制する可能性があり、とくに先端プロセスが必要な5G端末、サーバー、ゲームなど影響が広がりそう。生産能力の確保が市場成長を左右する。
3. 半導体需要は過熱しており、すでにコロナ危機後の成長期入りだが、日本は遅れ気味で、回復力もかける。世界の動きをとらえて、成長の波に乗ることが大事だろう。

蚊帳の外の日本半導体

半導体の品不足が世界的に大きな動きとしてマスコミで報じられている。行政レベルでの対応も目立ち、品不足解消のため台湾や韓国の大手には欧米から工場誘致の要請が行われている。しかし、わが日本は、誘致もなければ、積極的な対応もみられず、蚊帳の外。世界の波から取り残されている感だ。

焦点は先端技術、とくに 5G 通信、データセンター向けチップやゲーム向けプロセッサのファウンドリ・サービスの工場。台湾 TSMC、韓国サムスン電子が大手、最近では米インテルも力を入れる方針を打ち出した。日本はファウンドリ事業で成功例はみられず、成長分野の「ファウンドリ-ファブレス」モデルは不発、不毛なのが実態。

どちらも、もともと隙間、限られた市場から出発して今日の隆盛に至っており、ルーツは、既存の大手が手を出しにくい(やりたがらない)細かい分断された分野をかき集め、利益を積み重ねた。日本いえば下請けだが、多数の客にサービスを提供、経営の独立性、自律性が高いことが強み。このセンスは、日本では、ほとんどみられない。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2021 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2021 年 5 月(毎月 1 回発行)第 32 巻 5 号(通巻 383 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒188-0014 東京都 西東京市 芝久保町 3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

© 株SRL 2021

SRL Monthly Report

May 2021, No.383

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014 Japan

Mail: info@semiconresearch.co.jp

Publisher/Editor Osamu Ohtake

購読料金 1 年分(12 号)98,000 円(税別) 107,800 円(税込み)